（別記）

令和８年度幕別町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

幕別町は、北海道十勝の中南部に位置し、地形は南北に 47㎞、東西に 20㎞と細長い形になっていることから、それぞれの地域に適した農業経営が営まれている。十勝平野のほぼ中央部にあたる本町、札内、南幕別地区においては畑作物や野菜生産を主体とした、また中山間地である忠類地区においては酪農を主体とした経営が中心となっている。

なお、全耕地面積に占める水田の割合は約 1.5%となっている。

地域の振興作物である野菜や、輪作体系の主要作物の作付促進と生産性の向上を一層進めていく必要がある。

一方、農家の高齢化、離農が進んでおり、担い手の育成が課題となっている。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

幕別町は南北に細長い形になっていることからそれぞれの地域に適した作物を生産してり、畑作物や野菜の生産には、湿害対策は大変重要である。また、連作障害による地力低下、病害虫発生等の影響による減収を回避し、安全で良質な農産物を安定的に供給するためには、輪作体系の維持が必要である。

また、その競争力をさらに高めていくため、湿害対策の実施や輪作体系を維持しながら、水田における高収益作物等への転換を奨励し、新規作物・新品種の導入、地域のブランドの確立と農産物の高付加価値化を進めていく。

ＧＰＳガイダンスシステム等のＩＣＴ技術導入による作業の効率化及び省力化を進め、担い手・労働力不足が進むなかで、農地の集積・集約化を促進し、収益力強化を図る。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

〇地域の実情に応じた農地の在り方

農業経営における担い手不足は年々深刻化しており、認定農家戸数の推移はこの 10 年間で約 15%が減少している。また、多くの水田で数年以上畑作物の生産が定着している状況が続いている。農業従事者の高齢化や後継者不足、担い手・労働力不足解消のためのＩＣＴ技術の導入による作業効率の向上や省力化の推進、さらには障がい者雇用等の労働力対策に係る受け入れ体制の整備を積極的に進めていくために、水田の畑地化を推奨する。

〇地域におけるブロックローテーション体系の構築

同一水田ほ場において同じ畑作物を作り続けた場合、病害が発生しやすくなり、水稲や畑作物の収量及び品質の低下につながりやすくなるため、今後の産地形成をどのように図って行くのか、現場の課題を検証しつつ、水稲と転換作物とのブロックローテーションの構築について検討を進めていく。

〇水田の利用状況の点検方針・点検結果を踏まえた対応方針

水稲を組み入れない作付体系が数年以上定着し、畑作物のみを生産し続けている水田について、水田台帳や現地確認により毎年点検を行う。点検結果により、数年以上畑作物の生産が定着している水田については、畑地化支援を活用した畑地化の取組を推奨する一方で、水田機能を有しつつ、麦・大豆等の転換作物を生産する農地については、令和８年度までに現場の課題を検証し、水稲と転換作物とのブロックローテーションの構築について検討を進める。また、畑作物の産地形成に向けた体制構築や地域でまとまった畑地化の調整を行うため、現地確認や地域の関係者との話し合いを行う。

４　作物ごとの取組方針等

（（１）主食用米

北海道において定める生産の目安に基づいた生産を行い、適正な施肥量の厳守や適期刈り取り等の推進により、安定的な品質、数量の確保に努める。

（２）麦、大豆、飼料作物

基本技術の励行と輪作体系の作物としての栽培技術の向上に努め、あわせて機械導入による省力化を図り、生産性の向上と適期収穫による品質向上を図る。

（３）そば、なたね

適正な肥培管理を行い、品質の確保に努めながら、安定生産の推進を図る。

（４）地力増進作物

連作障害回避と生産性向上を図ることを目的に、地力増進作物として導入されている休閑緑肥の取組について、他作物と同様に支援を行う。

※地力増進作物の内訳（えん麦、とうもろこし、ソルガム、イタリアンライグラス、ギニアグラス、スーダングラス、アカクローバー、アルサイククローバー、クリムソンクローバー、ベッチ類、ペルコ、カラシナ類、レバナ、はぜりそう、マリーゴルド、ひまわり）

（５）高収益作物

地域の特産物として安定的な品質・数量を確保に努めるとともに、あわせて生産技術の向上を図り、作付面積の維持と所得確保に努める。

※野菜の内訳（ねぎ、玉ねぎ、かぼちゃ、キャベツ、はくさい、レタス、だいこん、にんじん、やまのいも、ごぼう、青さやいんげん、青さやえんどう、ほうれんそう、とうもろこし、ブロッコリー）

（６）小豆・菜豆

地域の特産物として安定的な品質・数量を確保に努めるとともに、あわせて生産技術の向上を図り、作付面積の維持と所得確保に努める。

（７）ばれいしょ

機械の導入などによる省力化、湿害対策の取組みなどを進めていくこととし、作付面積の維持を図る。

（８）てん菜

機械の導入・直播栽培による省力化を進めるとともに、適期防除と併せ湿害対策を強化し輪作体系の作物として作付面積を確保し、高収益・高品質のてん菜生産に努める。

５　作物ごとの作付予定面積等　～　**８　産地交付金の活用方法の明細**

別紙のとおり

※　農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

別紙

５　作物ごとの作付予定面積等

（単位：ha）

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和８年度の作付目標面積等	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	2.17	0.00	2.17	0.00	2.17	0.00
備蓄米	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
飼料用米	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
米粉用米	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
新市場開拓用米	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
WCS用稲	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
加工用米	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
麦	50.98	0.00	50.00	0.00	50.00	0.00
大豆	6.58	0.00	6.50	0.00	6.50	0.00
飼料作物	10.18	0.00	10.00	0.00	10.00	0.00
・子実用とうもろこし	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
そば	0.00	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00
なたね	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
地力増進作物	0.00	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00
高収益作物	0.60	0.00	1.70	0.00	1.70	0.00
野菜	0.60	0.00	1.70	0.00	1.70	0.00
・ねぎ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
・玉ねぎ	0.00	0.00	0.15	0.00	0.15	0.00
・かぼちゃ	0.00	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00
・キャベツ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
・はくさい	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
・レタス	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
・だいこん	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
・にんじん	0.00	0.00	1.15	0.00	1.15	0.00
・やまのいも	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
・ごぼう	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
・青さやいんげん	0.00	0.00	0.05	0.00	0.05	0.00
・青さやえんどう	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
・ほうれんそう	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
・とうもろこし	0.60	0.00	0.30	0.00	0.30	0.00
・ブロッコリー	0.00	0.00	0.10	0.00	0.10	0.00
花き・花木	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
果樹	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他の高収益作物	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
湿害対策	85.61	0.00	85.75	0.00	85.75	0.00
小豆	22.20	0.00	20.75	0.00	20.75	0.00
菜豆	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
馬鈴しょ（でん粉原料用馬鈴しょを含む）	43.53	0.00	45.00	0.00	45.00	0.00
てん菜	19.88	0.00	20.00	0.00	20.00	0.00
畑地化	35.34	0.00	141.53	0.00	141.53	0.00

※ 当年度の作付予定面積等の面積について、まだ畑地化促進事業が採択されていないため、
畑地化予定の面積も各作物の面積に含めている。

６ 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	小豆・菜豆、てん菜、馬鈴しょ(でん粉原料用馬鈴しょを含む)	湿害対策に対する支援	作付面積	（７年度）85.61ha	（８年度）90.00ha
			取組面積	（７年度）85.61ha	（８年度）90.00ha
			収量の向上（小豆）	（７年度）250kg/10a	（８年度）291kg/10a
			収量の向上（菜豆）	（７年度）210kg/10a	（８年度）223kg/10a
			収量の向上（てん菜）	（７年度）6,904kg/10a	（８年度）7,237kg/10a
			収量の向上（馬鈴薯）	（７年度）2,719kg/10a	（８年度）3,466kg/10a
2	野菜（ねぎ、玉ねぎ、かぼちゃ、キャベツ、はくさい、レタス、だいこん、にんじん、やまのいも、ごぼう、青さやいんげん、青さやえんどう、ほうれんそう、とうもろこし、ブロッコリー）	高収益作物の作付に対する支援	作付面積	令和７年度 0.60ha	令和８年度 2.00ha
3	地力増進作物（えん麦、とうもろこし、ソルガム、イタリアンライグラス、ギニアグラス、スーダングラス、アカクローバー、アルサイククローバー、クリムソンクローバー、ベッチ類、ペルコ、カラシナ類、レバナ、はぜりそう、マリーゴルド、ひまわり）	地力増進作物（休閑緑肥）の取組に対する支援	作付面積	令和７年度 0.00ha	令和８年度 0.5ha
4	そば	そばの取組に対する支援	作付面積	令和７年度 0.00ha	令和８年度 0.50ha

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
※　目標期間は３年以内としてください。

7　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：幕別町農業再生協議会

協議会名：

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価 （円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	湿害対策に対する支援	1	30,000	小豆・菜豆、てん菜、馬鈴しょ(でん粉原料用馬鈴しょを含む)	対象作物1作物につき、次に定める取組を1以上実施すること。(ただし、国や道が助成する基盤整備等で実施した場合は対象外とする。) ① 明渠・暗渠排水(無材暗渠含む) ② 心土破砕(サブソイラ、プラソイラ等) ③ 心土改良(カッティングソイラ等) ④ 畦間サブソイラ ⑤ 高畦栽培 ⑥ 深耕爪付プランタ ⑦ 畦間土壌透水性改善(カルチベータ等) ⑧ 踏圧軽減(セミクローラー式トラクタ、ダブルタイヤ等) ⑨ たい肥施用 ・前作物の収穫後から対象作物の収穫までの期間内に取り組みを実施する。 ・たい肥施用については、「北海道施肥ガイド」や「北海道における有機質資材の利用ガイド」を活用することとし、1トン/10a以上散布(地力を維持するためのたい肥の施用量)し、作物が正常に生育し適正な収量・品質の農産物が得られ、かつ環境に負荷を与えない量を施用すること。 その際、たい肥の肥料効果を見込んで、「北海道施肥ガイド」等を活用し適正施肥に努めること。 ⑩ 傾斜均平化(レーザー均平機等)
2	高収益作物の作付に対する支援	1	30,000	野菜(ねぎ、玉ねぎ、かぼちゃ、キャベツ、はくさい、レタス、だいこん、にんじん、やまのいも、ごぼう、青さやいんげん、青さやえんどう、ほうれんそう、とうもろこし、ブロッコリー)	水田での高収益作物の作付面積に応じて支援
3	地力増進作物(休閑緑肥)の取組に対する支援	1	25,000	地力増進作物(えん麦、とうもろこし、ソルガム、イタリアンライグラス、ギニアグラス、スーダングラス、アカクローバー、アルサイククローバー、クリムソンクローバー、ベッチ類、ペルコ、カラシナ類、レバナ、はぜりそう、マリーゴルド、ひまわり)	水田での地力増進作物(休閑緑肥)の作付面積に応じて支援
4	そばの取組に対する支援	1	20,000	そば	水田でのそばの作付面積に応じて支援

※1　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「○○○(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「○○○(耕畜連携)」と記入してください。
　　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「○○○(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。
※2「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。
※3　産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※4　産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。